

## 四季折々の森の植物や鳥・虫などの動物を紹介します

### 1. ガマズミ (スイカズラ科)

森づくりセンターから「ふれあいゾーン」の方に歩いて行くと、ガマズミが実をつけています。

ガマズミは山野に自生して、昔から人々の生活のなかで親しまれてきた樹木です。

ガマズミは春に咲く白色の花、初夏から観賞できる赤い果実、秋の紅葉と、長期間観賞できる花木なので庭木としてもよく利用されます。栽培は容易で、あまり大きくなりず、また野趣に富んだ樹姿が魅力です。熟した果実はすっぱく、生食できるほか、果実酒にも利用できます。

類似の野生種に関東地方以西の本州太平洋側、四国、九州に自生し、葉が小さいコバノガマズミがあります。



### 2. エノキ (ニレ科)

「里の森ゾーン」から大型遊具のそばを通過して橋を渡り、右に進むとゆるやかな坂道にさしかかります。すこし進むと、左手に大きな樹が2本生えています。この樹がエノキです。

エノキは大きく育つので、昔は村と村の境や街道に植えられ旅人などが目印としてきました。今は、神社や公園に多く見られます。

2本のエノキはもともと旧野洲川南流の左岸の堤防脇に生育していました。立派な樹なので、伐採されないで残されたものです。

葉は4～10cmで、葉の上半分にだけギザギザ(鋸歯)があります。4～5月に葉のつけ根に花が咲き、10月頃に実がなります。

葉は国蝶に指定されているオオムラサキの幼虫の餌です。

今年の台風21号は強い風が吹き荒れて各地で樹木が倒れました。びわこ地球市民の森も約60本の樹木が倒されました。このエノキも何本も枝が折られたので、枝を切り取っていますから樹形がすっかり変わりました。



### 3. ホトトギス (ユリ科)

上に記したエノキのそばの園路を西に進むと、園路の左脇にホトトギスが花をつけています。

ホトトギスは毎年花を咲かせる多年草で、東アジアで19種が確認されており、そのうち10種が日本の固有種です。

山野草として人気が高い植物です。花びらに斑点がありますが、この斑点がホトトギス(野鳥)の腹部にある模様とよく似ているところからこの名前がついています。

主な花期は夏から秋で、通常花びらは6枚あります。やや、暑さに弱く夏に葉が茶色くなり姿が悪くなることがあります。



#### 4. ツワブキ (キク科)

ホトトギスと同じ林縁にこれからツワブキがキクの花に似た黄色い花をつけます。この花を見ると、冬が近づいていることを強く感じます。

ツワブキは日本原産で海岸近くの崖や岩場などに自生します。また、園芸品種には白い大きな斑が入るフイリツワブキの他、葉のところどころに黄色い斑点が入るキンモンツワブキ等があり和風の庭園にはよく植えられています。

ツワブキは花がない季節も葉は美しい濃緑色を保ちますから民家の玄関脇、露地や庭先などに植栽されているのをよく見かけます。

名前は艶葉蒨(つやはぶき)「つやのある葉をもったフキ」のほか、厚葉蒨(あつはぶき)「厚い葉をもったフキ」から転じたとする説があります。

若い葉の柄はフキのようにキャラブキにして食べるとおいしいそうですが、有毒物質である「ピロリジジナルカロイド」を含むので軽くゆがいて皮をむき、酢を加えた湯で煮直し、1日以上水にさらすなどの「アク抜き」が必要で手間がかかります。



#### 5. ススキ (イネ科)

園路脇の草原にススキの穂が太陽の光に美しく輝いています。ススキの別名は尾花(オバナ)ですが、これはススキの花穂からきた名前だと言われます。ススキを刈って屋根を葺くからカヤとも言います。屋根の材料の他にも、かつては炭俵、草履(ぞうり)、すだれ、目刺しの串として利用されてきました。

ススキは秋の七草のひとつに数えられ、秋を代表する植物として親しみ深い植物です。秋の七草は万葉歌人山上憶良の次の二首の歌によってよく知られています。

「秋の野に 咲きたる花を 指(および)折り かきかぞふれば 七種の花」

「萩の花 尾花 葛花 撫子の花 女郎花、また藤袴 朝顔の花」

ススキの穂は斜めに開く枝が少ないもので7本、多いもので30本以上もあります。この枝に毛におおわれた粒々がついています。この粒々は小穂といわれるものです。ススキの穂が美しく映えるのは、小穂の基部に生えた毛に艶があるからです。

よく似た植物にオギがありますが、ススキのように株を作って(株立ち)生えるのではなくバラバラに生えます。また、小穂に芒(のぎ)がないので区別できます。



#### 6. スズメ (ハタオリドリ科 図鑑によってはスズメ科としているものもある)

日本にすむ野鳥の中でスズメくらい私たちの身のまわりにおいて、ありふれた鳥はいないでしょう。その姿は誰でもよく知っている。スズメが登場する童話やおとぎ話、言い伝えなどはたくさんあります。

しかし、あまりにありふれた鳥であるために、その生態はよくわかっていないようです。稲穂をついばむので農家から嫌われているようですが、スズメも子育ての時期は、ほとんど昆虫を食べていることがわかっています。

スズメの外観の特徴は、頭は栗色、ほおに黒い斑がある、くちばしは黒、両足をそろえて飛び跳ねるように歩くことです。

